

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名：北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

課題名② 集落営農組織の経営継続・発展に向けた活動支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	2		・高温障害が出やすくなっているため、今後の対策を考えてもらいたい。 ・これからますます高齢化していくので、自製代の育成をどのようにしていくのかと思いました。どの業種も人材育成が課題だと思います。 ・集落営農化をするには必要だと思います。	・高温耐性品種として、「あきの舞」が奨励品種となり、一般栽培が始まった。品種の特性や肥料加減等を周知し、普及させていく。 ・人材育成には今後も取り組んでいく。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3	1			
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	2	2		・関係機関とよく連携がとれていると思う。	・他の品目にも研修会等で紹介していきたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	0		・専門的な機材などを使った調査などすばらしいと思いました。ほかの作物にも教えてほしい情報です。	
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	0			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	2		・次の世代へ引継ぎをできるよう、できることはなんでもしたい。 ・今後、外国人労働者も視野に入れた方がいいと思う。	・外国人労働者については今後検討していきたい。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	1			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	1			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課さつま町駐在

課題名② 集落営農組織の経営継続・発展に向けた活動支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5	0		・高齢化が進む中、組織化は必要なことと思います。一層の発展に向け、課題解決にご指導ください。	・継続して取り組む。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	0			
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	2		・労働力軽減への対策(システム活用、機械導入)や支援ができています。組合の話し合い活動を実施し、スケジュール管理を支援、今後、後継者の継承がスムーズに移行できるように支援を。 ・将来的なビジョンまで考えた活動支援だと思いました。積極的なコミュニケーションも素晴らしいです。	・継続して取り組む。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	2			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3		・改善の必要はないと思います。 ・若手の今後の取組に期待します。 ・ロードマップの実践(又は見直し)に対する若手従業員の取組に期待します。(組織運営への積極的な参画を期待します)	・継続して取り組む。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	4	1			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	2		・地域全体で取り組む広い感覚を。	・継続して取り組む。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	2	3			

普及課題名

集落営農組織の経営継続・発展に向けた活動支援

令和8年1月22日

北薩地域振興局農林水産部農政普及課
さつま町駐在経営普及グループ 竹ノ内愛香音

1 対象と活動体制

【対象】

集落営農組織「農事組合法人夢希耕あながわ」

【活動体制】

さつま町担い手支援室、再生協議会、JA北さつま等
月1回定例理事オペレーター会



2 課題を取り上げた背景・ねらい

農事組合法人夢希耕あながわ

法人設立：平成25年2月14日

経営面積：30ha

栽培品目：水稻24ha、小麦10ha、
さといも、さつまいも、大豆、そば等

労働力：構成員7名、

従業員1名（令和5年度～）、

事務員1名（令和元年度～）



雇用⇒所得の確保が必要

若手従業員等が主体的に活躍できる集落営農
組織運営の実現

目次

1 対象と活動体制

農事組合法人夢希耕あながわ

2 課題を取り上げた背景・ねらい

若手が主体的に活躍できる組織運営の実現

3 活動の内容・成果

R5：アンケート、経営シミュレーション

R6：営農管理システム「KSAS」

衛星センシングを活用した可変施肥

R7：5か年ロードマップ

4 残された課題

若手が中心となって作成したロードマップの実践

3 活動内容・成果（令和5年度）

○現状把握のため、構成員等へアンケート調査を実施

～アンケート内容～

- ①どのような思いで構成員になったか
- ②経営発展のための工夫
- ③今後の目標、具体策
- ④組織の良いところ、改善すべきところ、具体策

月1回の定例会時に
アンケート結果を共有



3 活動内容・成果（令和5年度）

○アンケート結果

- 運営について
 - ・休日を設定し作業や勤務予定の相互確認を行う。
 - ・中長期的な作業日程を可視化する。
 - ・会議において協議の活発化の為、意見や企画等のアンケートを投函できるものを設置する。
 - ・集落内にこだわらず地域外からの雇用(担い手支援室、振興局等のアドバイス) 他産業定年者の勧誘
 - ・若者が働きやすい環境づくり
- 作業について
 - ・みな高齢であるので、**全員や班体制で作業を行う。**⇒令和6年度から、**畦畔の草刈は班体制で作業するようになった**
 - ・品目ごとにエリアを集約し、効率よく作業を行えるようにする。
- 経営について
 - ・品目ごとに収支状況を算出し、作物選定の見直しを行う。(収益が上がっていないものもあるのでは?)
⇒例えば、大豆であれば、畑と水田で分けて算出する。
 - ・必ずしも実数値である必要はなく、今年度かかると想定される費用等を用いて**シミュレーション**を行う。
 - ・採算のとれない農地について考え直す。

3 活動内容・成果（令和5年度）

○アンケート結果をもとに取り組んだこと

- ・品目ごとの経営シミュレーション
- ・作業管理の見える化
- ・月別の作業計画作成
- ・水稻の生産安定

3 活動内容・成果（令和5年度）

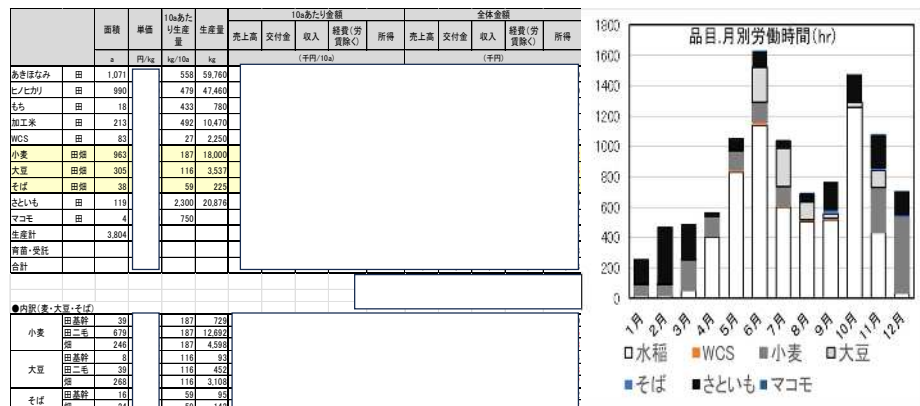
○品目ごとの経営シミュレーションを実施

- ・総会資料から品目ごとの生産量、売上高、交付金等を算出（水稻は品種ごと、小麦・大豆・そばは、水田・畑それぞれ算出）
- ・品目ごとの所得、労賃を除いた経費等をシミュレーション
- ・構成員の作業ごとの労働時間の算出を事務員に依頼
- ・労働時間をもとに品目、月別労働時間のグラフを作成し、労働ピークを可視化、鹿児島県の収益制標準と比較

3 活動内容・成果（令和5年度）

○品目ごとの経営シミュレーションを実施

- ・畑で栽培する大豆や小麦が赤字になっている
- ・小麦は補助事業の関係上、一定以上作付必要

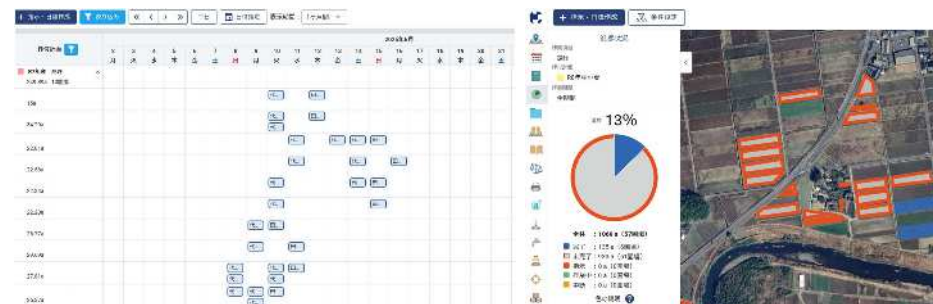


3 活動内容・成果（令和6年度）

○営農管理システム「KSAS」の導入支援

- ・アグリノートはほとんど活用されていなかった
→他の営農管理システムとして「KSAS」を提案

・システム化研究会の「衛星センシングを用いた水稻可変施肥実証」を行うことをきっかけに「KSAS」の試用開始



ほ場ごとの作業日誌一覧

小麦の踏圧の進捗状況

目次

1 対象と活動体制

農事組合法人夢希耕あながわ

2 課題を取り上げた背景・ねらい

若手が主体的に活躍できる組織運営の実現

3 活動の内容・成果

R5：アンケート、経営シミュレーション

R6：営農管理システム「KSAS」

衛星センシングを活用した可変施肥

R7：5か年ロードマップ

4 残された課題

若手が中心となって作成したロードマップの実践

3 活動内容・成果（令和6年度）

○営農管理システム「KSAS」の導入支援

- ・従業員はほ場の場所がすぐ調べられてとても良い
- ・事務員が小麦の補助事業等で必要な情報を集めて書類を作成できる
- ・地図の印刷やデータをExcelファイルとして取り出せて良い



小麦ほ場の作業日誌

ほ場が一目でわかる

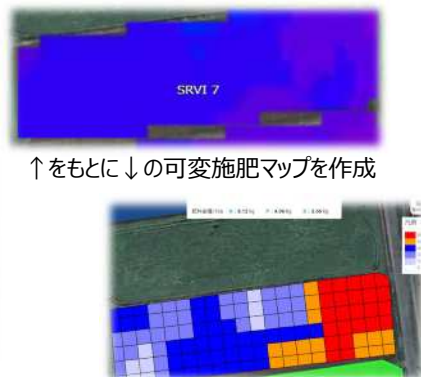
3 活動内容・成果（令和6年度）

○水稻の生産安定のため、可変施肥技術を提案

- ・衛星センシング（KSAS）を活用して可変施肥マップを作成
- ・全量基肥可変施肥田植えの実証（R6-7）を行った



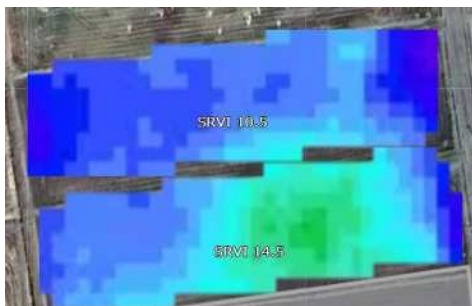
ロボット田植機による可変施肥田植え実証



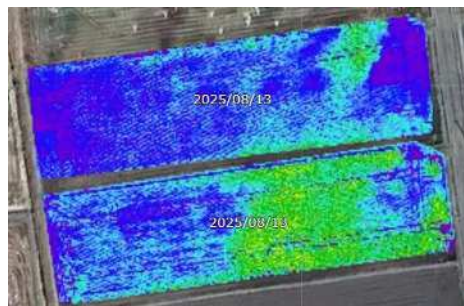
3 活動内容・成果（令和6年度）

○水稻の生産安定のため、可変施肥技術を提案

- ・可変施肥の効果は判然としなかった
- ・KSASの衛星センシングはドローンによるセンシングと同様の傾向を示した



8/19 KSASセンシング（SRVI）



8/13 ドローンセンシング（SRVI）

目次

- 1 対象と活動体制
農事組合法人夢希耕あながわ
- 2 課題を取り上げた背景・ねらい
若手が主体的に活躍できる組織運営の実現
- 3 活動の内容・成果
R5：アンケート、経営シミュレーション
R6：営農管理システム「KSAS」
衛星センシングを活用した可変施肥
R7：5か年ロードマップ
- 4 残された課題
若手が中心となって作成したロードマップの実践

3 活動内容・成果（令和7年度）

○5年後の将来を見据えたロードマップの作成支援

- ・ロードマップ作成に向けた話合いの機会を設け、現状と目標を確認



3 活動内容・成果（令和7年度）

○5年後の将来を見据えたロードマップの作成支援

・過去のロードマップを修正し
全体の目標を設定

新様式ロードマップを作成することを提案

理念を実現するための具体的な目標（令和7年）	
数字で示せるもの	●経常利益(※) 1,700万円 ○新たな構成員の確保 2名 ○経営面積 33ha ○単収(水稲) 500kg ○1等米比率 70% ○売上高 3,100万円
数字で示せないもの	- 理念・目標 ・元気に仕事をする - 収益向上 ・1等米比率の向上 70% ・土づくりの継続的な取組(土壌改良資材の施用) ・栽培層に基づく栽培管理の徹底 - 労務管理・連携強化 ・メリハリをつけて働く ・定休日をもつける - 経営合理化 ・経営支援システムを活用し、作業の無駄をなく ・経営基盤強化準備金を活用した機械投資により省力化を進める - 人材確保・育成 ・公民会と連携して中山間の活動、農道の整備、イノシシ対策等を地域全体で進める。 - 地域との共存

↑R2に作成した目標
→R7に作成した目標

理念を実現するための具体的な目標（令和11年）	
数字で示せるもの	●経常利益 1,700万円 ○新たな人材の確保 2名 ○経営面積 30ha ○単収(水稲) 520kg ○1等米比率 60% ○売上高 4,000万円 ○米の販売単価300円/kgを目指す
数字で示せないもの	- 理念・目標 ・土壌改良や面きながら世代交代に向けて取り組む - 収益向上 ・1等米比率の向上 60% ・土づくりの継続的な取組(土壌改良資材の施用) ・栽培層に基づく栽培管理の徹底 - 労務管理・連携強化 ・メリハリをつけて働く ・週1日の休日を取る ・努力負担軽減に向けて様々な工夫を図る - 経営合理化 ・経営支援システムを活用し、作業の無駄をなく ・経営基盤強化準備金を活用した機械投資により省力化を進める - 人材確保・育成 ・デイワークを活用した人材確保 ・アグリテックを取り入れた技術 ・新たな人材の確保に向けて対策を実施 - 地域との共存 ・公民会と連携して中山間の活動、農道の整備、イノシシ対策等を地域全体で進める。

3 活動内容・成果（令和7年度）

○5年後の将来を見据えたロードマップの作成支援

- ・品目ごとの目標とする年間スケジュールを作成
- ・目標に対して、1年ごとに作業の遅れ等を確認

作業計画表																				
		3月						4月						5月						
		日	1～5	6～10	11～15	15～20	21～25	25～31	1～5	6～10	11～15	15～20	21～25	25～30	1～5	6～10	11～15	15～20	21～25	25～31
水稲	ヒ/カ			種子脱芒													育苗散水 準備開始		消毒	播種
	あきほの舞												種子脱芒					消毒	播種	寒冷紗 掛け
	あきほなみ												種子脱芒				消毒	播種	寒冷紗 掛け	
	なつほのか																		中干し	
	加工用 あきほなみ												種子脱芒							
	WCS													種子脱芒					播種	寒冷紗 掛け
麦	ヒ/カ			種子脱芒													育苗散水 準備開始		消毒	播種
	あきほなみ												種子脱芒				消毒	播種	寒冷紗 掛け	
	その他																			
小麦	せときらら	追肥	周囲 満ちえ						実肥① 赤かき 防除①		実肥② 赤かき 防除②					周囲明 きよらえ			収穫	収穫

3 活動内容・成果（令和7年度）

○5年後の将来を見据えたロードマップの作成支援

- ・各品目ごとに目標・具体策を検討
- ・年別の目標を策定

若手従業員等が中心となって表を作成

3 目標達成への方策（ロードマップ）		現状と課題	目標達成への方策	具体的項目	R7	R8	R9	R10	R11
収益向上	作物共通	★過期作業の実施	★過期作業ができない作物について作業内容を再度みんなで見合（一人任せにならないようにする）	★作物別の担当の割り当て					
		★作物にあった圃場の選定	★生育の悪い圃場への植付の検討 ★圃場の性質に合わせた作物の選定	★場合によっては地権者への圃場の返還などの検討					
		★除草対策(重労働である)	★効果的な除草体系を考える ★除草剤の活用・畦畔除去・除草剤の散期散布						
水稲		★土づくりの徹底	★土壌改良資材及び堆肥投入を実施	★計画的に圃場を選定して、土壌診断を実施する					
		★収量・等級の向上	★土づくり・肥料の定量散布・除草剤確実散布	★ワラの持ち出しの検討等を行う					
		★田植時の時間短縮（機械故障による遅れを解消）	★機械更新により時間の短縮を図る ★播種の検討	★田植機の購入(6条又は8条) ★刈払機・ローリーター等の購入					

4 残された課題

- ・次世代への継承
- ・雇用環境整備、新たな雇用の確保
5年後は主要な構成員6名が80歳以上になる
- ・ロードマップの実践

